

平成29年度業務実績報告(自己評価)の評定及び委員意見一覧

平成29年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
第1 教育研究の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	0	3	69	1	73	95.9%	1.4%	

1 教育に関する目標を達成するための措置

(1) 入学者受入方針・入学者選抜に関する目標を達成するための措置

1	イ 学士課程 No.1~6		1	4		5	80.0%	0.0%	C
---	---------------	--	---	---	--	---	-------	------	---

法人の自己評価に対する委員評価・意見

《参考》 評定実績		
H27	H28	H29

【評価】	【委員意見】
B	○伊勢委員 C 留学生の確保に対する対策は、課題も多いようだが、海外向けの情報発信の強化を含め対策が待たれると感じる。
B 4	○伊藤委員 B 外国人の出願者数が増えたのは評価できるが、入学者が6人では目標値含め選抜方法も検討すべきである。
C 2	○齋藤委員 B 外国人留学生入学者の一時的減少はそれほど大きな問題ではない。さまざまな努力により、学部の入学者が10%以上増えたことは高く評価すべきである。
	○中島委員 B 留学生の充足不足があるが、努力の跡は見える。
	○橋本委員 C 昨年度入試科目の変更等により減少した志願者を、丁寧な入試広報により増加させたことを評価する。留学生数については目標・計画の見直しが必要かもしれない。
	○吉沢委員 B 受験者を増やす努力はされており、2倍を切らない倍率が全体で保たれているため、学生の質の確保も十分と考える。

A	A	
---	---	--

2	ロ 大学院課程 No.7~11		2	2		4	50.0%	0.0%	C
---	-----------------	--	---	---	--	---	-------	------	---

【評価】	【委員意見】
C	○伊勢委員 C 入学者確保が課題とのこと。情報発信のみならず長期的な対策が必要と感じる。
B 2	○伊藤委員 B 入学者数が定員に対して、大きく下回っている要因を明確にすべきである。
C 4	○齋藤委員 C ○中島委員 B 大学院進学率が低いのは地方の大学全般に見られる現象である。保護者への説明が効果的かもしれない。
	○橋本委員 C 大学院定員未充足は宮城大学に限った問題ではなく、抜本策の難しさを感じる。
	○吉沢委員 C 事業構想および食産業のそれぞれの研究科の充足率が低いようだ。出口が見える示し方が必要と考える。

A	A	
---	---	--

平成29年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
------	---	----	-----	----	---	--------	------	-----

法人の自己評価に対する委員評価・意見

《参考》 評定実績		
H27	H28	H29

(2) 教育の内容等に関する目標を達成するための措置

3

イ 学士課程 No.12~24	0	0	11		11	100.0%	0.0%	A
(イ) 教育課程編成の基本方針 No.12~15			2	1	3			
(ロ) 共通教育(基盤教育) No.16~19			4		4			
(ハ) 専門教育 No.20~22			3		3			
(ニ) 教育方法と成績評価 No.23~24			2		2			

【評価】	【委員意見】
A	○伊勢委員 A ○伊藤委員 A ○齋藤委員 A ○中島委員 A ○橋本委員 S
S 1	グローバル社会に向けてのコミュニケーション能力の向上をより一層望む。
A 5	共通教育(基盤教育)が組織的に行われ始めたことは高く評価できる。あわせてラーニング commons の整備をさらに進めることを期待する。
	少人数クラスと独自教材による「スタートアップセミナー」「アカデミックセミナー」を新規開講し、「地域フィールドワーク」では地域の課題に目を向ける貴重な学びの機会を提供したこと、また「宮城大学の知の体系」では4年間の学びを明示したこと等を評価する。また、これらの科目についての担当教員等による教授法の共有をはじめ、他の科目も含めたシラバスの精査、成績評価等において点検・検証と改善が組織的に行われていることを高く評価する。
	○吉沢委員 A 特に共通科目は素晴らしい。3群を超えた共通の学びが今後さらに必要と思う。その意味で評価できる取り組みと思う。

A	A	
---	---	--

4

ロ 大学院課程 No.25~34			10		10	100.0%	0.0%	A
(イ) 教育課程編成の基本方針 No.25~28			4		4			
(ロ) 各研究科 No.29~31			3		3			
(ハ) 教育方法と成績評価 No.32~34			3		3			

【評価】	【委員意見】
A	○伊勢委員 A ○伊藤委員 A ○齋藤委員 A ○中島委員 A ○橋本委員 A ○吉沢委員 B
A 5	年度計画を予定通り実施していると認められる。
B 1	公立大学法人としての博士前期課程の特色をもっと出したほうが良いと考える。博士後期においても同様で、博士後期学生の成果、学生の筆頭論文数あるいは特別研究員数などを出してみてはどうか。

A	A	
---	---	--

平成29年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価	法人の自己評価に対する委員評価・意見	《参考》 評定実績					
										H27	H28	H29			
(3) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置															
5	イ 適正な教員配置 No.35～38					4	4	100.0%	0.0%	A	【評価】 A A 6	【委員意見】 ○伊勢委員 A ○伊藤委員 A ○齋藤委員 A ○中島委員 A ○橋本委員 A 年度計画を予定通り実施していると認められる。 ○吉沢委員 A	A	A	
6	ロ 教育及び教員の質の向上 No.39～42					4	4	100.0%	0.0%	A	【評価】 A A 6	【委員意見】 ○伊勢委員 A ○伊藤委員 A 授業評価の回答率が大幅に伸びた事は評価に値する。しかし、半数余りの非回答者の意向がどんなものか気になる所。 ○齋藤委員 A 授業評価への回答率は60%以上となることが望まれる。 ○中島委員 A ○橋本委員 A FD・SDをマクロ、ミドル、ミクロの3階層に分け、組織的かつ体系的な教育改善・大学運営改善を図ったこと、また教職員合同の全学SD研修に9割を超える参加があったことを評価する。 ○吉沢委員 A 教育に関するFDが、それぞれレベルに応じて実施されている。	A	A	
7	ハ 教育環境の整備 No.43～45					4	4	100.0%	0.0%	A	【評価】 A A 6	【委員意見】 ○伊勢委員 A ○伊藤委員 A ○齋藤委員 A ○中島委員 A ○橋本委員 A 学生のニーズの把握に努め、各コモンズの整備等により、学修環境整備が進んだことを評価する。 ○吉沢委員 A	A	A	

平成29年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

	I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価	法人の自己評価に対する委員評価・意見	《参考》 評定実績				
										H27	H28	H29		
(4) 学生への支援に関する目標を達成するための措置														
8	イ 学修支援 No.46～49					3	3	100.0%	0.0%	A	【評価】 A A 6 【委員意見】 ○伊勢委員 A ○伊藤委員 A ○齋藤委員 A 「学修ポートフォリオ」をどう活用するかについてのさらなる検討が望まれる。 ○中島委員 A ○橋本委員 A 関連する各センターの教職員やクラス担任等の連携システムを構築し、休学率・退学率が抑えられたことを評価する。 ○吉沢委員 A	A	A	
9	ロ 生活支援 No.50～52					3	3	100.0%	0.0%	A	【評価】 A A 6 【委員意見】 ○伊勢委員 A ○伊藤委員 A 1年生に対しての禁煙セミナーやキャンパス全面禁煙の計画は推進すべきである。 ○齋藤委員 A ○中島委員 A ○橋本委員 A 各センター等の密接な連携により、学生一人ひとりの実情に応じた学生支援を行う体制が整備されたことを評価する。 ○吉沢委員 A ハラスメント相談室は設けているのか、ハラスメント教育はどのように行っているか。	B	A	
10	ハ 就職支援 No.53～57					4	1	100.0%	20.0%	A	【評価】 A S 1 A 5 【委員意見】 ○伊勢委員 A 手厚い支援を継続していることは評価できると感じる。 ○伊藤委員 S ○齋藤委員 A きめ細かい対応により就職率100%が達成されたことは高く評価される。 ○中島委員 A ○橋本委員 A 丁寧な就職支援により従来から高い就職率を誇っていたが、開学以来となる就職率100%を達成したことを評価する。 ○吉沢委員 A	A	A	

平成29年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

No.	評価項目	I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
		11	ニ 社会人・留学生への支援 No.58～59			2		2	100.0%

法人の自己評価に対する委員評価・意見	
【評価】	【委員意見】
A	<p>○伊勢委員 A</p> <p>○伊藤委員 A</p> <p>A 6 サテライトを駅前に設置する必要性は充分ある。</p> <p>○齋藤委員 A</p> <p>○中島委員 A</p> <p>○橋本委員 A</p> <p>年度計画を予定通り実施していると認められる。</p> <p>○吉沢委員 A</p> <p>母国に戻る学生は良いが、日本で働きたい学生の就職支援はどのように行っているか。</p>
【特記事項に関する委員意見】	
<p>○伊勢委員 特色ある取り組みを進めていて、着実に実行されていると評価できる。</p> <p>○伊藤委員 まずは、就職率100%は環境変化があったにせよすばらしい。また、志願倍率も上昇した事も評価できる。</p> <p>○齋藤委員 各項目において的確な説明・評価がなされている。</p> <p>○橋本委員 新規開講カリキュラムにおいて少人数クラスの導入や地域に関する主体的な学びの促進が図られたこと、教授法の共有やシラバスの精査・授業評価等における検証・改善等がなされたこと、また学生の学修を促す各 commons の整備を図ったこと、また関連センターの連携のもと、個々の学生の実情に応じた支援体制が整備されたことを評価する。 開学以来となる就職率100%達成を評価する。 全学SDをはじめレベル別のFD・SD研修に多くの教職員が参加し、大学運営や教育の課題を共有し組織的対応が図られたことを評価する。</p> <p>○吉沢委員 学部境域においては、非常に特色ある教育が進められていることではとても興味深く、評価できると思う。オープンキャンパスの取り組み、大学広報が非常によくできていると思う。また、先進的な教育的取り組みをすするときに、しっかりFDを開き、一人一人の教員が熱心に取り組む姿は大学として好ましい姿と思う。大学院がやはり苦戦しているように見受けられる。</p>	

《参考》 評定実績		
H27	H28	H29
S	S	

平成29年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
------	---	----	-----	----	---	--------	------	-----

法人の自己評価に対する委員評価・意見

《参考》 評定実績		
H27	H28	H29

2 研究に関する目標を達成するための措置

(1) 研究水準及び研究成果に関する目標を達成するための措置

12

イ 研究の方向性 No.60~63			4		4	100.0%	0.0%	A
-------------------	--	--	---	--	---	--------	------	---

【評価】 A	【委員意見】 ○伊勢委員 A ○伊藤委員 A A 6 地域課題やニーズに対応する研究応募が大幅に伸びた事を評価する。一方で企業、自治体との連携目標値に達しなかったのは残念。高度な実学によるさらなる地域貢献を願う。 ○齋藤委員 A ○中島委員 A ○橋本委員 A 年度計画を予定通り実施していると認められる。 ○吉沢委員 A 学内限定の研究費の設定は、競争的資金獲得研究としては限度がある。採択率も高いので、質の高い成果につながらないのではないかと。
-----------	---

A	A	
---	---	--

13

ロ 研究水準の向上 No.64~65			2		2	100.0%	0.0%	A
--------------------	--	--	---	--	---	--------	------	---

【評価】 A	【委員意見】 ○伊勢委員 A ○伊藤委員 A A 5 B 1 ○齋藤委員 A ○中島委員 A ○橋本委員 A 年度計画を予定通り実施していると認められる。 ○吉沢委員 B 論文設定数が低いのではないかと。特に看護は教員数からみて設定、到達が0.2-0.3本/人は少ないと思われる。
-----------	---

A	A	
---	---	--

平成29年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目		I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
14	ハ 研究成果の地域社会への還元 No.66～68			3		3	100.0%	0.0%	A
(2) 研究の実施体制等に関する目標を達成するための措置									
15	イ 研究の実施体制 No.69～71			3		3	100.0%	0.0%	A
16	ロ 研究費の配分 No.72～76			5		5	100.0%	0.0%	A

法人の自己評価に対する委員評価・意見	
【評価】	【委員意見】
A	<p>○伊勢委員 A</p> <p>○伊藤委員 A</p> <p>A 5 地域連携センターでのコーディネーターの設置でより一層の地域貢献につなげてほしい。</p> <p>B 1 ○齋藤委員 A</p> <p>○中島委員 A</p> <p>地元との絆を有効に利用している。</p> <p>○橋本委員 A</p> <p>公開講座を積極的に実施し、大学の知見を地域に還元し教員の研究をPRしたこと、また教員と自治体・企業・団体とのマッチングにより成果が挙げたことを評価する。</p> <p>○吉沢委員 B</p> <p>イの研究成果がハの評価になると思われるが、そこが見えていない。しかし地域貢献そのものは成果を上げていると評価できる。</p>

《参考》 評定実績		
H27	H28	H29
S	A	

法人の自己評価に対する委員評価・意見	
【評価】	【委員意見】
A	<p>○伊勢委員 A</p> <p>○伊藤委員 A</p> <p>A 6 自治体や食産業協議会との包括連携協定で関連企業がより気軽に課題を共有できる事を評価する。</p> <p>○齋藤委員 A</p> <p>○中島委員 A</p> <p>○橋本委員 A</p> <p>年度計画を予定通り実施していると認められる。</p> <p>○吉沢委員 A</p> <p>ビデオ上映で出席の確認は必須で、努力されていると思う。</p>

A	A	
---	---	--

法人の自己評価に対する委員評価・意見	
【評価】	【委員意見】
A	<p>○伊勢委員 A</p> <p>○伊藤委員 A</p> <p>A 6 ○齋藤委員 A</p> <p>○中島委員 A</p> <p>○橋本委員 A</p> <p>年度計画を予定通り実施していると認められる。</p> <p>○吉沢委員 A</p> <p>とても良い研究ばかりであるということかもしれないが、採択率が高すぎると思う。外部の審査員を入れてみるのもいいか。</p>

A	A	
---	---	--

平成29年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

17	評価項目	I	II	III	IV	計	III+IVの割合	IVの割合	仮評価
		ハ 研究者の配置 No.77			1		1	100.0%	0.0%

法人の自己評価に対する委員評価・意見	
【評価】	【委員意見】
A	<ul style="list-style-type: none"> ○伊勢委員 A ○伊藤委員 A ○齋藤委員 A ○中島委員 A ○橋本委員 A 年度計画を予定通り実施していると認められる。 ○吉沢委員 A
A 6	<p>【特記事項に関する委員意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○伊勢委員 東松島の学校作りプロジェクトが2017グッドデザイン賞を受賞されたとのことで、地域との協働が評価され素晴らしい。 ○齋藤委員 各項目において的確な説明・評価がなされている。 ○橋本委員 研究費募集期間を前倒しする等の工夫を凝らし、地域課題・復興に資する研究を推進し、成果を挙げたことを評価する。 公開講座を積極的に開催し、教員の研究PRに努め、教員と自治体・企業・団体とのマッチングにより成果が挙げたことを評価する。 ○吉沢委員 若手の研究者への配慮と採択支援については、非常に評価できる。研究成果としては、やはり、論文数の目標数値が低すぎる学群は、もう少し上げる努力をすることが必要である。その反面食産業学群は年間1人当たりの論文数は1本を超えているので、評価できると思う。

《参考》 評定実績		
H27	H28	H29
A	A	

平成29年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
第2 地域貢献等に関する目標を達成するためとるべき措置	0	0	22	1	23	100.0%	4.3%	

法人の自己評価に対する委員評価・意見

《参考》 評定実績		
H27	H28	H29

1 地域貢献に関する目標を達成するための措置

18	(1) 地域社会への貢献 No.78~83			6		6	100.0%	0.0%	A
----	-----------------------	--	--	---	--	---	--------	------	---

【評価】	【委員意見】
A	○伊勢委員 A 秋のオープンキャンパスの来場が低迷したことの分析はできているか。
A 6	○伊藤委員 A ○齋藤委員 A ○中島委員 A ○橋本委員 A 年度計画を予定通り実施していると認められる。 ○吉沢委員 A 高校教員との意見交換は、入学者数、質に大きく影響する。努力されていると思う。

A	A	
---	---	--

19	(2) 産学官の連携 No.84~86			3		3	100.0%	0.0%	A
----	---------------------	--	--	---	--	---	--------	------	---

【評価】	【委員意見】
A	○伊勢委員 A ○伊藤委員 A ○齋藤委員 A 連携数の計画以上に達成している。
A 6	○中島委員 A ○橋本委員 A 市町村等との連携は、県立大学の存在意義を高めるためにも重要であり、今後さらに進めるよう期待する。 ○吉沢委員 A 年度計画を予定通り実施していると認められる。 看護学群以外の2群は、産学連携の取り組みがよく見えるが、看護学群の産学連携も積極的に見える化してはかがか。

A	A	
---	---	--

平成29年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

No.	評価項目	I	II	III	IV	計	III+IVの割合	IVの割合	仮評価
20	(3) 大学間及び高等学校との連携 No.87～89			2	1	3	100.0%	33.3%	A

法人の自己評価に対する委員評価・意見

【評価】
A

【委員意見】
○伊勢委員 A
他大学との連携が結果を出して評価できる。
(県立大学同士の連携が基本となるのか?)
○伊藤委員 A
○齋藤委員 A
兵庫県立大学との教育連携は高く評価できる。同様の公立大学との連携をさらに進めることも期待される。
○中島委員 A
○橋本委員 S
文科省の補助事業として実施された兵庫県立大学との連携によるCPプログラムが高く評価され、プログラム終了後も、地域に貢献できる人材育成カリキュラムとして発展定着しつつあることを評価する。また県内高校との丁寧な意見交換を行い、入試制度の一部変更、学習プログラムの提案、アカデミック・インターンシップの実施等に結び付け成果を挙げたことを評価する。
○吉沢委員 S
兵庫県立との連携は素晴らしいと思う。公立大学ならではの取り組みがさらに発展し、それが全国に発信できるとよいと思う。

《参考》 評定実績		
H27	H28	H29
A	A	

No.	評価項目	I	II	III	IV	計	III+IVの割合	IVの割合	仮評価
21	2 国際交流等に関する目標を達成するための措置 No.90～96			7	0	7	100.0%	0.0%	A

【評価】
A

【委員意見】
○伊勢委員 A
○伊藤委員 A
○齋藤委員 A
○中島委員 A
○橋本委員 A
年度計画を予定通り実施していると認められる。
○吉沢委員 A
学部レベルの国際的取り組みが積極的に進められ、海外との大学のMOUから協定につながる努力が行われている。研究者レベル、大学院学生レベルでもさらに積極的に進められることを望む。

S	A	
---	---	--

- (1) グローバル化を推進するための教育環境整備 No.90～91
- (2) 海外大学等との連携 No.92～93
- (3) 留学・留学生支援 No.94～96

平成29年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

	評価項目	I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
22	3 東日本大震災からの復旧・復興支援に関する目標を達成するための措置 No.97～100			4		4	100.0%	0.0%	A

法人の自己評価に対する委員評価・意見	
【評価】	【委員意見】
A	<p>○伊勢委員 A</p> <p>○伊藤委員 A</p> <p>A 6 東日本大震災で兵庫県には特段のご支援を頂いた。兵庫県立大学との連携を今後も深めて頂き、復興に向けてのイノベティブなプランナー育成をさらに願う。</p> <p>○齋藤委員 A</p> <p>○中島委員 A</p> <p>○橋本委員 A</p> <p>年度計画を予定通り実施していると認められる。</p> <p>○吉沢委員 A</p> <p>災害看護をカリキュラムの軸にもってきていることを災害県の使命として取り組んでいることを評価する。</p>
	<p>【特記事項に関する委員意見】</p> <p>○伊勢委員 地域フィールドワークの成果を期待したい。多様な連携の取り組みを評価する。</p> <p>○伊藤委員 地域貢献は基本理念にもあるように大学設立の重要な使命である。特に新しくコーディネーターを配置した地域連携センター機能に期待したい。</p> <p>○齋藤委員 各項目において的確な説明・評価がなされている。</p> <p>○橋本委員 文科省補助事業のCPプログラムが成果を挙げ、大学のカリキュラムとして定着したこと、また地域課題に向き合う「地域フィールドワーク」を新たに開講したこと等、地域に貢献する人材育成が進んだことを評価する。 地域のニーズを汲み上げた多数の公開講座を開催し、大学の知見を地域に還元したことを評価する。 教員と自治体・企業・団体とのマッチングが進み、成果を挙げたことを評価する。 高大連携を積極的に進め、アカデミック・インターンシップでは過去最大の参加者があったことを評価する。</p> <p>○吉沢委員 地域貢献としては、さすが教育、産学連携、国際協力も含めて評価できると思う。学生の県内の入学率は半分を超えていてよいと思う。今後は県外入学者が県内にどれだけ定着してくれるか考える必要があると思う。</p>

《参考》 評定実績		
H27	H28	H29
A	A	

平成29年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとすべき措置	0	0	14	0	14	100.0%	0.0%	

法人の自己評価に対する委員評価・意見

《参考》 評定実績		
H27	H28	H29

1 運営体制の改善に関する目標を達成するための措置

23	(1) 理事長を中心とする運営体制の構築 No.101~105			5		5	100.0%	0.0%	A
----	---------------------------------	--	--	---	--	---	--------	------	---

【評価】	【委員意見】
A	○伊勢委員 A ○伊藤委員 A ○齋藤委員 A ○中島委員 A 理事長のリーダーシップは良く発揮されている。 ○橋本委員 A 年度計画を予定通り実施していると認められる。 ○吉沢委員 A 看護は別にして、職員、教員の男女率、職位別男女率はいかがか。

A	A	
---	---	--

24	(2) 戦略的な予算等の配分 No.106			1		1	100.0%	0.0%	A
----	-----------------------	--	--	---	--	---	--------	------	---

【評価】	【委員意見】
A	○伊勢委員 A ○伊藤委員 A ○齋藤委員 A ○中島委員 A ○橋本委員 A 年度計画を予定通り実施していると認められる。 ○吉沢委員 A

A	A	
---	---	--

25	(3) 学外の有識者等の登用 No.107~108			2		2	100.0%	0.0%	A
----	---------------------------	--	--	---	--	---	--------	------	---

【評価】	【委員意見】
A	○伊勢委員 A ○伊藤委員 A ○齋藤委員 A ○中島委員 A ○橋本委員 A 年度計画を予定通り実施していると認められる。 ○吉沢委員 A

A	A	
---	---	--

26	2 教育研究組織の見直しに関する目標を達成するための措置 No.109			1		1	100.0%	0.0%	A
----	-------------------------------------	--	--	---	--	---	--------	------	---

【評価】	【委員意見】
A	○伊勢委員 A ○伊藤委員 A ○齋藤委員 A ○中島委員 A ○橋本委員 A 年度計画を予定通り実施していると認められる。 ○吉沢委員 A

A	A	
---	---	--

平成29年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

No.	評価項目	I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価	法人の自己評価に対する委員評価・意見	《参考》 評定実績		
											H27	H28	H29
27	3 人事の適正化に関する目標を達成するための措置 No.110~112			3		3	100.0%	0.0%	A	【評価】 A A 6 【委員意見】 ○伊勢委員 A ○伊藤委員 A ○齋藤委員 A ○中島委員 A ○橋本委員 A 年度計画を予定通り実施していると認められる。 ○吉沢委員 A	A	A	
28	4 事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための措置 No.113~114			2		2	100.0%	0.0%	A	【評価】 A A 6 【委員意見】 ○伊勢委員 A ○伊藤委員 A ○齋藤委員 A ○中島委員 A ○橋本委員 A 年度計画を予定通り実施していると認められる。 ○吉沢委員 A 【特記事項に関する委員意見】 ○齋藤委員 各項目において的確な説明・評価がなされている。 ○橋本委員 各学群からの理事兼副学長の登用、各役員の権限と責任の明確化、各会議の役割分担の明確化等により、理事長・学長のリーダーシップを支える体制を強化し、大学改革のより一層の推進を図ったことを評価する。 FD・SDに積極的に取り組み、教職員の資質向上を図ったことを評価する。 事務組織を見直し、時間外勤務の削減に取り組むこと等により、業務運営の効率化とワークライフ・バランスを図ったことを評価する。 ○吉沢委員 学群、学類の組織変更がどこにどのような効果が見出されたのか、今後継続的に評価していく必要がある。今回の業務実績評価の中では見いだされにくかったと思われる。	A	A	

平成29年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	0	1	10	0	11	90.9%	0.0%	

法人の自己評価に対する委員評価・意見

《参考》 評定実績		
H27	H28	H29

29

1 外部研究資金その他の自己収入の増加に関する目標を達成するための措置 No.115～119

	1	4		5	80.0%	0.0%	C
--	---	---	--	---	-------	------	---

- (1) 外部資金の獲得 No.115～116
- (2) 自己収入の確保 No.117～119

【評価】 C	【委員意見】 ○伊勢委員 C 科研費補助金の採択については目標値が高いのかもしれないが、申請書類の内容不備はなくされた。
	B 1 C 5 ○伊藤委員 C 中期計画当初の額を下回ってしまった事は残念。 ○齋藤委員 B 外部資金の全体状況をふまえると、今年度の目標設定額自体に無理があり、達成できないことはやむをえないと判断すべきである。 ○中島委員 C ○橋本委員 C 今後外部資金獲得額が伸びる可能性は十分あるが、中期計画の金額には少し無理があったのではないか。今後の年度計画の見直しを検討してもよいのではないか。 ○吉沢委員 C 競争的外部資金を取ることが、その学群のインセンティブになるなど仕組みが必要。学内で多様な研究資金があるので外部資金を取ることに積極的になれないのではないか。自己収入の確保では学生数も増え、確実に授業料徴収されているので、この面では問題はないと思う。

C	C	
---	---	--

30

2 経費の抑制に関する目標を達成するための措置 No.120～123

		4		4	100.0%	0.0%	A
--	--	---	--	---	--------	------	---

【評価】 A	【委員意見】 ○伊勢委員 A ○伊藤委員 A ○齋藤委員 A ○中島委員 A ○橋本委員 A 年度計画を予定通り実施していると認められる。 ○吉沢委員 A
	A 6

A	A	
---	---	--

平成29年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目		I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
31	3 資産の運用管理の改善に関する目標を達成するための措置 No.124～125			2		2	100.0%	0.0%	A

法人の自己評価に対する委員評価・意見	
【評価】	【委員意見】
A	<ul style="list-style-type: none"> ○伊勢委員 A ○伊藤委員 A ○齋藤委員 A ○中島委員 A ○橋本委員 A <p>年度計画を予定通り実施していると認められる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○吉沢委員 A
A 6	
【特記事項に関する委員意見】	
<ul style="list-style-type: none"> ○伊藤委員 外部研究費受入額で事業構想学群の減少率が大いだが、地域産業への貢献度が期待されるだけに残念。 ○齋藤委員 各項目において的確な説明・評価がなされている。 ○橋本委員 職員の時間外勤務の実態を明らかにし、その改善を図ったことを評価する。 外部資金獲得に関しては、計画の見直しがあっても良いと考える。 	

《参考》 評定実績		
H27	H28	H29
A	A	

第5 教育及び研究並びに組織及び運営の状況に係る自己点検・評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためとるべき措置

第5 教育及び研究並びに組織及び運営の状況に係る自己点検・評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためとるべき措置		I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
32	1 自己点検・評価の充実に関する目標を達成するための措置 No.126～129 《No.127は平成30年度以降の作業となるため年度計画なし》	0	0	6	0	6	100.0%	0.0%	A

法人の自己評価に対する委員評価・意見	
【評価】	【委員意見】
A	<ul style="list-style-type: none"> ○伊勢委員 A ○伊藤委員 A ○齋藤委員 A ○中島委員 A ○橋本委員 A <p>年度計画を予定通り実施していると認められる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○吉沢委員 A <p>自律的な自己点検ができていると思う。</p>
A 6	

A	A	
---	---	--

平成29年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

No.	評価項目	I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
		33	2 情報公開の推進等に関する目標を達成するための措置 No.130~132			3		3	100.0%

法人の自己評価に対する委員評価・意見

【評価】
A
A 6

【委員意見】
○伊勢委員 A
○伊藤委員 A
○齋藤委員 A
○中島委員 A
○橋本委員 A
年度計画を予定通り実施していると認められる。
○吉沢委員 A
広報室を立ち上げ、プレリリースができるなど、今後の研究活動のためにも重要と考える。

【特記事項に関する委員意見】
○伊勢委員
アンケートより、オープンキャンパスと高校教員からのアドバ
イスの効果を確認し、高大連携への取り組みの重要性を改め
て認識した。
○齋藤委員
各項目において的確な説明・評価がなされている。
○吉沢委員
専任者を備えた広報室の立ち上げが必要ではないか。

《参考》 評定実績		
H27	H28	H29
A	A	

第6 その他業務運営に関する重要目標を達成するためとるべき措置

No.	評価項目	I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
34	1 施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置 No.133~136			4		4	100.0%	0.0%	A

【評価】
A
A 6

【委員意見】
○伊勢委員 A
○伊藤委員 A
○齋藤委員 A
○中島委員 A
○橋本委員 A
年度計画を予定通り実施していると認められる。
○吉沢委員 A
4コモンズの開設はとても魅力的である。

A	A	
---	---	--

平成29年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

	評価項目	I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
35	2 安全管理等に関する目標を達成するための措置 No.137～140			4		4	100.0%	0.0%	A
36	3 人権の尊重に関する目標を達成するための措置 No.141～142			2		2	100.0%	0.0%	A
合 計		0	4	131	2	137	97.1%	1.5%	

法人の自己評価に対する委員評価・意見	
【評価】 A A 6	【委員意見】 ○伊勢委員 A ○伊藤委員 A ○齋藤委員 A ○中島委員 A ○橋本委員 A 年度計画を予定通り実施していると認められる。 ○吉沢委員 A 留学生の受け入れ, 学生, 教員の海外研修など積極的に行うのであれば, 国内だけでなく, 国外への持ち出しなど, 危機管理も必要と考える。
【評価】 A A 6	【委員意見】 ○伊勢委員 A ○伊藤委員 A ○齋藤委員 A ○中島委員 A ○橋本委員 A 年度計画を予定通り実施していると認められる。 ○吉沢委員 A
【特記事項に関する委員意見】 ○齋藤委員 各項目において的確な説明・評価がなされている。 ○吉沢委員 安全管理は学内にとどまらず, 海外流出などに向けた, 危機管理の構築も必要と思う。人権侵害は学生, 教員, 職員すべてに徹底した教育, 配慮が必要と思う。それぞれがいつでも, どこでも相談できる(安全, 安楽)体制が必要と思う。	

《参考》 評定実績		
H27	H28	H29
A	A	

A	A	
---	---	--

平成29年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	I	II	III	IV	計	III+IVの割合	IVの割合	仮評価				
						仮評価	S=	0	A=	33	B=	0

法人の自己評価に対する委員評価・意見	
【委員意見】(全体評価)	
○伊勢委員 ・新カリキュラムを導入され、その成果を期待したい。(導入初年度の分析はあるか?) ・地域(産・官)、高校、他県大学との連携を積極的に進め、公的にも評価を得ているのは素晴らしい。 ・海外への情報発信強化、留学生や大学院課程の入学数の充足が課題とされていますが、これまでの取り組み(産学官連携プロジェクト)や研究の成果の蓄積と適切な発信を期待する。 ・事務職員を含めた全体の質の向上のため、FD、SD、各種研修を実施されて「大学の質の可視化」に着実に取り組まれていることも評価する。	
○伊藤委員 ・全体的に中期計画に向け推移していると評価する。年度計画においては、出来るだけ具体策や数値化して頂ければアクションプランも現実性を帯びてくと思う。理念に向かってさらなるご尽力を、大いに期待する。	
○齋藤委員 ・「平成29年度の年度計画を概ね達成することができた」という法人の概評は十分に説得的である。 ・基礎教育の「フレッシュマンコア」において、アクティブラーニングを積極的に導入し、基礎的・総合的学修力をつけようと努力していることは高く評価できる。 ・卒業生を対象にした「学生生活満足度調査」において、教室と食堂に関する満足度が低いことは気になる。理由を調べ、早急に善処されることを望む。 ・キャンパスの整備にむけて本格的に取り組むべき時期にあるように思われる。「基本計画」が予定通り進むよう、財政計画とともにしっかりと準備するよう期待する。	
○橋本委員 ・全体として、年度計画が概ね達成されたと認められる。 ・学類・学群移行初年度に当たり、「フレッシュマンコア」では少人数のクラス制による大学独自の教材による指導が行われ、「地域フィールドワーク」は学生が地域課題に目を向けるきっかけとなった。4年間の学修と卒業後を明示化する「宮城大学の知の体系」の開講も意義深いと思われる。 ・教授法の共有をはじめ、シラバスの精査・授業評価等における、点検・検証と改善が組織的に行われる体制作りが進んだ。 ・FD・SDがレベル別に設定され、対象者と目的がより明確になり、教職員の資質向上が効果的に図られた。 ・学生の自発的学修を促す各 commons の整備が進み、また各センター等の連携強化により、個々の学生の状況に応じた支援体制も作られ、学修・生活支援の充実が図られた。	

《参考》 評定実績			
H27	H28	H29	
S=	3	1	0
A=	31	34	0
B=	1	0	0
C=	1	1	0
D=	0	0	0
合計	36	36	0

平成29年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価

法人の自己評価に対する委員評価・意見
<p>・丁寧な支援により、開学以来となる就職率100%が達成された。</p> <p>・県内高校を中心とした高大連携にも注力し、入試体制やカリキュラムの説明と意見聴取により、入学志願者増やアカデミックインターンシップ参加者増となった。</p> <p>・震災復興を含む地域課題研究に重点的に研究費を配分するとともに地域のニーズを汲み上げた公開講座を積極的に開催し、教員と自治体・企業・団体とのマッチングを進め、大学の知見を地域に還元した。</p> <p>・兵庫県立大学と連携した地域に貢献する人材育成プログラム(文科省補助事業)が評価され、大学カリキュラムに繋がったことも特筆すべきことである。</p> <p>・一方、大学院定員未充足、留学生数の伸び悩み、外部資金獲得額の低迷等、課題も多々あるが、目標・計画の見直しを検討されても良いと思われる事案もある。今後の宮城大学の益々の発展を期待する。</p>
<p>○吉沢委員</p> <p>・ほとんどがA評価なるなど、素晴らしい大学の取り組みが読み取れた。平成29年度は、学群、学類の体制となり、学部カリキュラム、特に全学教育改革が行われた年にあつたため、先の評価は見えないまでも非常に努力されている。</p> <p>・ただ、その中で、大学院の動きがやはりあまり活発には見えず、今後どのような特色を持った大学院にするのか一掃の努力が必要と思われる。</p> <p>・財政面では安定しているように見受けられる。ただ、外部競争的資金(大型研究資金)をどのように獲得するかが、今後のカギになると思われる。教員構成から見て人件費がかさんでくるとされる。財政圧迫にならず、教育、研究のパフォーマンスが落ちない方策が必要になってくるとされる。</p>

《参考》 評定実績		
H27	H28	H29